

## 膝蓋骨脱臼症

詳細は「じょうずに管理するには」を参照してください。

### 1、原因

- (1) 大腿部の筋肉のバランスの欠如・不均衡：先天性
  - 股異形成の影響
  - 関節の変形
  - 運動機能の低下・筋肉の萎縮
- (2) 大腿骨滑車溝・滑車稜の変形：先天性
  - 膝蓋関節の炎症・変形・肥厚
- (3) 下腿骨の内転・外転・彎曲：先天性
  - 筋肉のバランスの不均衡
  - 脱臼の進行
- (4) 病状の進行による二次的な変性
- (5) 肥満
- (6) 他の部位の整形外科疾患による影響
- (7) 不適切な生活環境や運動
- (8) 膝蓋骨の形状
- (9) 靭帯の損傷
- (10) 軟骨異栄養症

### 2、痛み・違和感の原因

- (1) 膝蓋骨脱臼による物理的な疼痛
- (2) 急性および慢性炎症
- (3) 滑車溝・稜の変形・変性
- (4) 十字靭帯・側副靭帯損傷
- (5) 半月板損傷
- (6) 筋肉の萎縮
- (7) 他の部位の炎症・変形・変性
- (8) 変形性骨関節症
- (9) 脛骨の変形・内転・彎曲による軸のズレ

### 3、治療

- (1) 手術が主体になりますが、手術ですべてが治るわけではなく、手術では正常な形状に戻し、疼痛や違和感の主な原因を取り除くだけで、その後の機能回復は内科治療

やリハビリテーション、生活環境の整備、適切な運動が重要です。

- a、筋肉のバランス不均衡を改善するための筋肉・関節包を切除し、重層に縫合する。
  - b、滑車溝を適切な形状に整える。
  - c、脛骨粗面の移植を行い、膝蓋靭帯の変位と後肢の軸を整える。
- (2) 早期の手術が重要ですが、その理由はいくつかあります。
- a、疼痛や違和感が強くなるまで症状とならないため、病状の進行や動物を苦しめるとい  
う点で、早く取り除くべきです。
  - b、他の関節、肢、脊椎に影響を与えるため、この影響を最小限にとどめる。
  - c、膝関節・膝蓋関節の炎症や変形の進行を抑える。
  - d、下腿骨や靭帯・半月板の損傷を最小限に抑える。
  - e、筋肉の萎縮を抑える。
  - f、合併症を予防する。
- (3) 整復手術が、複数回必要になる場合があります：左右別に手術を行うため  
術後の再発のため  
患部の調整のため
- (4) 手術後の脱臼の再発は、病状や術後の運動制限不徹底、肥満などで起こりやすくな  
ります。
- (5) 脱臼が再発した場合、脱臼の程度と後肢の転位の状況によっては、整復手術の効果  
が充分で、再手術が必要ない場合があります。
- (6) 術後は、ケージレストや運動制限、ロバート・ジョーンズ包帯法、薬物治療などにより、患部へ  
の負荷を軽くするように治療を行います。

#### 4、予後の注意

- (1) 患部の負担の管理（過度な運動は避け、しっかり歩く）
- (2) リハビリテーション（負重が充分であれば、必要ありません）
- (3) 炎症・感染対策
- (4) 包帯・テーピングによる蒸れ・かぶれ・皮膚炎・褥創
- (5) 関節包および術創の癒合不全（特異体質による）
- (6) 骨内ピンによる皮膚損傷（皮下脂肪織の量と厚さによる）
- (7) 再発
- (8) 合併症
- (9) 回復の遅延